

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回 大内地域協議会
開 催 日 時	平成17年11月22日(火) 午前9時30分
開 催 場 所	環境改善センター
出 席 者 氏 名	「出席者名簿」のとおり
欠 席 者 氏 名	佐々木秀雄 富士盛久美子
会議次第 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 案件及び説明 1) 由利本荘市総合発展計画 基本構想(案)について 4. その他 5. 閉会	
会 議 の 経 過	別紙のとおり

出席者名簿

(43名)

会 長	小松敏博	伊藤花子	地域自治区長	小笠原察雄
副会長	田口良一	布施隆子	総合支所長	堀川喜久雄
吉田千代治		佐々木正男	企画調整部長	猿田正好
佐々木盛三		小笠原良一	地域政策課長	早川修一
鈴木郁夫		伊藤直子	企画調整課参事	大庭司
堀川一博		小嶋宏	総合支所	
佐々木政勝		東海林重	市民課長	菊地敏文
加藤龍一		佐々木源治	福祉保健課長	佐々木妙子
小松弘		佐々木ハツ	産業課長	鈴木一
東海林昇		東海林長子	教育事務所長	小助川弘高
佐々木恭悦			生涯学習課長	東海林一昭
鈴木久雄			CATV センター所長	伊藤鋭一
鈴木哲			事務局	
佐々木多悦			振興課長	斉藤光一
金子幸子			主席参事	遠藤信悦
齊藤豊			課長補佐	堀良隆
東海林スツエ			主 事	鈴木司
田口正夫				

会議の経過

第2回 大内地域協議会

平成17年11月22日（火）

午前9時30分 開会

大内総合支所長 只今から第2回大内地域協議会を開催します。
会長よりあいさつをお願いします。

会長あいさつ (省略)

猿田企画調整部長 あいさつ (省略)

大内総合支所長 進行を会長よりお願いします。

会 長 案件1) について説明して下さい。

企画調整課
大庭参事 (資料1 から 4 を説明)

会 長 只今の説明に対してご質問ありませんか。

委 員A 大内地域集会所の整備に関して固有の名前が出ているが、期間や費用及び自己負担などについて具体的にお聞きしたい。

猿田企画調整部長 この計画において費用負担等について突っ込んだ議論はなされていません。
固有施設の名称を掲示することに反対の意見が多かった点を含め、地域の比較をするような記述は避けたいと考えています。又、計画の中に全ての事業が判るように列挙することは不可能ではないが、個別の実施計画の中に入れ込んでいきたい。

委 員B この計画は地方を見据えたものか、国とかの中央を見据えたものなのか。

猿田企画調整部長 まちづくりの方向性は合併協議会から仕上がったものと考えますが、今回の資料は他から制約を受けるものではありません。住民の皆さんにとって、わかり易い表現をして今後の協議会で議論をしていただきたい。個別事業については、9月

から各総合支所で見直しをしてきたが1月の協議会で具体的なものが提示されると思う。1525億円の事業費総額を変えることなく、地域の実情に沿った形の整備計画を皆様に示していきたい。

委員B 15歳の年代は生産年齢人口に入るのか。又、今の団塊世代は平成26年の老年人口の目標値に入るのではないのか。そして、15歳から18歳の段階は年少人口に入れるべきではないのかと考える。つまり、元数字がおかしいにもかかわらず、こういった計画がなりたつのかというのが素朴な疑問です。

猿田企画調整部長 統計法上の年齢区分として整合性を重視した場合は、こういった区分になるものと考えます。由利本荘市の顔としての総合計画ですので、この計画だけ他と違った区分とすることは出来ないものと考えます。人口の視点ですが、26年の目標値はかなり無理をしているのではと皆様がお感じになっているかと思います。しかし、地域づくりの雰囲気として敢えてハードルの高い目標値を設定した点はあるかかと思っています。

委員B こういった数値はおかしいということを由利本荘市から発信してほしい。

委員C 長期計画がないのに、どうして10年計画があるのか。

猿田企画調整部長 10年を周期として事業を配置することで話し合われている。通常は5年か10年の周期であって、地域とそれぞれの時代の要請で実施されていくものと考えています。基本計画の実施一覧は、地域バランスと住民の要望で年ごとに変更されるものですが、現在10年の期間として実施計画を精査しているところです。

委員D どういった形で自治組織を強化し、又、集落を再編するのか。

猿田企画調整部長 安定的な住民活動の基は、従来の集落及び地域活動と考えます。将来のコミュニティ活動にどう対応するのかが、再編とかを自治会側へ促すことはない。活動を将来どう描くかは住民によるところが大きい。

委員D まちづくりサポートセンターの役割について伺いたい。

猿田企画調整部長 仮称ではあるが、住民自治活動を支援するものとして判りやすく表現したものであり、ひとつの課として或いは新たな組織とは位置づけていません。

委員D 新市一体化の表現があるが、地域協議会の意見で綱引きの調整はあるものか。

猿田企画調整部長 地域協議会で相談をして頂いた内容や会の意見が市や課に伝わらないことのない

ようにしますし、全体としてどうするかは各総合支所や区長の意見を頂きながら進めたい。

委 員E 地域の想いが計画の中でどう表現されるのか伺いたい。

猿田企画調整部長 文章の中にどう想いをこめるか、地域の色をどう滲ませるかは非常に難しい点ではあります。欠かせないものが地域にそれぞれあるとしたら全体として支援を示していきたい。

会 長 総合発展計画の方向づけを了解したということによろしいですか。

猿田企画調整部長 皆様のご意見を踏まえて議会提案をいたし、その結果を皆様にお示ししたいと思います。

会 長 その他についてありませんか。

委 員D 町の時代とは違い、本課の決裁を待つという時間的なロスがある。総合支所枠について考えはあるか。

猿田企画調整部長 支所枠は予算措置の面で問題がある。財政課では速やかな予算づくりと即決システムに心がけると聞いている。しかし、枠の論議は不確定なものと思う。

委 員C 住民と行政がまちづくりを進めると書いてあるが具体的には。

猿田企画調整部長 三段構えでメニュー化している。自治会活動、地域おこし活動及び施設整備に関するものとして2千万を予算化しようとしている。

委 員C 事業をする場合、住民と一体の話し合いはないのか。

猿田企画調整部長 住民との話し合いもなく事業を立ち上げることはないと認識しています。計画に沿った形で進めていくには、皆様との協調連携が基礎となると考えます。

会 長 他にありませんか。それでは終了いたします。

大内総合支所長 皆様には、発展計画について気づかれた点をお知らせ下さい。次回開催は1月中に設定したいと思います。

小笠原区長

今後は基本計画そして各論に入っていくが、各町内に説明されていたことが論議されていくと思う。

閉会 11時10分